

昭和三十五年十二月三日 〔講演感想記〕

## 「今こそイデオロギーの時代」

参議院議員 加藤シヅエ先生

加藤シヅエ先生は、説明するまでもなく、元石本男爵夫人として令名をはせられ、目下は社会党の熱血児として有名な加藤勘十先生の夫人として、また自から参議院に議席を持たれて政界に活躍されている婦人代議士である。「今こそイデオロギーの時代」と題して、階級を離れた人間本来の立場から真の自由のあり方を説かれ、優秀なイデオロギーなくしては共産主義のイデオロギーのために自由世界は敗退の外はないと、ブックマン博士の、絶対正直、絶対純潔、絶対無私、絶対愛の道義標準に生きるMRA運動に共鳴せられ、自からかつて身を以て体験せられたマルクス理論や、各種の婦人解放運動を乗り越えられた先生の獅子吼は、聴く人の心の琴線に触れるものがあつた。

先生は十七歳の若さで、当時の貴族学校・女子学習院を卒業するなり両親の選ばれた結婚生活に入られたのである。時には数年間を三井鉱山の淋しい山の中に暮され、時には市川房枝女史と共に婦人解放運動の先頭に立たれた。そ

の間幾度か欧米にも渡り、あらゆる苦闘の体験から戦後は日本の政界に入られたが、ここでも先生の理想世界は見る事が出来ない。こうした失望の中から人間本来の姿を求められたのである。たまたま一九五九年十一月七日、米国ミシガン州マキノ島のMRA訓練センターに行かれ、ブックマン博士の説に共鳴され、ここに先生の立場が明確になった。先生のお話は極めて雄弁であつたが、それは唯だの雄弁ではなく、私達の心に深くくい入つて来るものがあつた。お話の終つた時、そのまま、暫く自己の現在のあり方を考えるために、静かに黙想したい衝動にかられた。

(塾理事 望月勲造)

※当DVD収録のご講演録には、現在では不適切と思われる表現が用いられている場合がございますが、講演時の時代背景等を尊重し、当時のままといたしました。